

4月28日(火曜日)「ダビデ(19)信仰的遺言」

【新改訳 2017】

Ⅰ 列王記 2・1-12

「ダビデの死ぬ日が近づいたとき……ソロモンに……言いつけた。『……強く、男らしくありなさい。あなたの神、主の戒めを守り……主の道を歩まなければならない。あなたが何をしても、どこへ行っても、栄えるためである。』」(Ⅰ-3節)

ついに、ダビデ王にも生涯を終える時が来ました。息子ソロモンに与えられた遺言的ことばの一部が上記の引用です。神の祝福の約束のことばです(申命記11・26、その他参照)

やはり、彼は信仰の人でした。ほかにも語ったことばや残されたこと(物)もあつたに違いないのですが、それらすべてのことの基本となる信条を伝えています。

それが、何よりもまず、神への信頼とみことばへの服従の勧めなのです。主なる神が約束された、「とこしえの契約」成就の摂理の働きを見る思いです。

H・C・ミアーズは、「彼、(ダビデ)は、大罪人だったが、大聖徒だった」と言っています(『旧約聖書の概説』聖書図書刊行会)。あなたはどんな遺

言を残すでしょうか。

～祈り～

主よ。私たちも、自分の子どもに対して、明確な霊的遺言を与えることができますように助けてください。

【学びのために】

II テモテ 1・5、3・15－17 参照

列王記 I、II は、サムエル記 I、II に続くイスラエルの歴史、特に、王の歴史を中心に記しています。ソロモンの治世、王国の分裂（北イスラエルと南ユダ）、それぞれの捕囚を含む両国の約 400 年間の盛衰記。